

「ほっかいどう学」の学びを考えるシンポジウム

～Let's learn Hokkaido～

平成28年3月、「世界の北海道」をキャッチフレーズとする第8期北海道総合開発計画が閣議決定されました。同計画は、本格的な人口減少時代にあっては、自ら考え地域づくりに取り組む地域の担い手を育成、確保することが重要であるとし、地域に関する理解と愛着を深めるために「ほっかいどう学」を促進することが盛り込まれました。

「ほっかいどう学」とは、子どもから大人まで、より多くの人々が地域づくりに関心を持つ契機を創出するため、自然や歴史、文化、環境等の北海道の魅力や個性について幅広く学ぶ取組のことで

本シンポジウムは、有識者の方々による基調講演や事例報告のほか、多様な学びの場への「ほっかいどう学」の展開に向けてご提言いただくパネルディスカッションを通じて、第8期北海道総合開発計画に掲げられた「ほっかいどう学」の更なる推進を図り、地域づくり人材の発掘・育成に資することを目的として開催するものです。

今後とも、関係機関等と連携を図りながら、本シンポジウムにおいて有識者の方々から頂いたご意見やご提言を踏まえ、国民・道民が分かりやすく学ぶことができる「ほっかいどう学」の展開に向け取り組んでまいります。

開催日時・場所

◆平成30年3月14日(水)
13:30～16:30(開場12:30)

◆札幌エルプラザ 3F ホール
札幌市男女共同参画センター
札幌市北区北8条西3丁目

入場無料
定員150名

申込締切
3月9日(金)

プログラム

裏面の参加申込書によりお申し込みください。

- ◆事務局報告 「ほっかいどう学」の概要、取組状況等について
遠藤 昭彦 北海道開発局開発監理部開発調査官
 - ◆基調講演 北前船と北海道～北海道のルーツと北前船の遺産～
高野 宏康氏 小樽商科大学グローバル戦略推進センター研究支援部門
地域経済研究部学術研究員
 - ◆事例報告 札幌らしさを学ぶ小学校における雪学習の推進～雪のカリキュラム・
マネジメント～
朝倉 一民氏 札幌市立屯田北小学校教務主任
 - ◆パネルディスカッション 多様な学びの場への「ほっかいどう学」の可能性について
コーディネーター：草苺 健氏 一般財団法人北海道開発協会 開発調査総合
研究所 理事・所長
- パネリスト：朝倉 一民氏 札幌市立屯田北小学校教務主任
新保 元康氏 札幌市立屯田小学校校長
高野 宏康氏 小樽商科大学グローバル戦略推進センター
研究支援部門地域経済研究部学術研究員
吉岡 宏高氏 札幌国際大学観光学部教授、
NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長

2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary



※本シンポジウムは、公益社団法人土木学会の継続教育(CPD)プログラムに認定されています(認定番号:JSCE18-0076)。
受講証明が必要な方は、身分証明書による本人確認を行いますので、当日は顔写真入りの身分証明書をご持参ください。

「ほっかいどう学」の学びを考えるシンポジウム2018
～Let's learn Hokkaido～

プロフィール

profile

◆基調講演／パネルディスカッション・パネリスト

小樽商科大学グローバル戦略推進センター研究支援部門地域経済研究部学術研究員

高野 宏康 (たかの ひろやす) 氏



石川県加賀市出身。博士(歴史民俗資料学)。専門は近現代史、地域資源論。国立歴史民俗博物館機関研究員を経て2013年から現職。文部科学省・地(知)の拠点整備事業の一環として、小樽・後志地域の歴史文化の調査研究及び観光資源化に取り組む。小樽市歴史文化基本構想策定委員会調査部会長、小樽梁川商店街活性化委員会委員。おたる案内人マイスター。著書：『北前船と小樽・後志～歴史文化のルーツを訪ねて～』(2016 小樽商科大学グローバル戦略推進センター、小冊子)ほか。

◆事例報告／パネルディスカッション・パネリスト

札幌市立屯田北小学校教務主任

朝倉 一民 (あさくら かずひと) 氏



北海道札幌市出身。北海道社会科教育連盟、北海道NIE研究会所属。Intel Master Teacher、NIEアドバイザー。学校教育への雪の活用に取り組む「北海道『雪』プロジェクト」事務局長を務めるとともに、アクティブ・ラーニングやICTの活用など、教育の現場において先進的な取組を数多く実践している。著書：『子ども熱中！ 小学社会「アクティブ・ラーニング」授業モデル』(2016 明治図書)、『板書&展開例でよくわかる 社会科授業づくりの教科書 3～6年』(2018 明治図書)ほか。

◆パネルディスカッション・コーディネーター

(一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所 理事・所長

草薙 健 (くさかり たけし) 氏



山形県山形市出身。1976年苫小牧東部開発(株)に入社し、苫東工業基地の緩衝緑地づくりと緑地保全等に従事。1998年(財)北海道開発協会に入社。はまなす財団への出向を経て2015年6月から現職。苫東勇払原野の保全と利活用を担うNPO苫東環境コモンズ事務局長。技術士(環境部門)。著書：『林とこころ』(2004 北海道林業改良普及協会)、『コモンズ地域の再生と創造～北からの共生の思想～』(共著、2014 北大出版会)ほか。

◆パネルディスカッション・パネリスト

札幌市立屯田小学校校長

新保 元康 (しんぼ もとやす) 氏



北海道小樽市出身。札幌市立小学校や附属札幌小学校を経て2017年から現職。北海道及び札幌市社会科教育連盟委員長。学校教育への雪の活用に取り組む「北海道『雪』プロジェクト」を設立したほか、交通環境学習の推進、校務支援システムの導入による校務の情報化など、教育の現場において幅広い分野でさまざまな取組を行っている。著書：『元気を出そう北海道の教育』(共著、2009 北海道通信社)、『防災まちづくり・くにづくり学習』(共著、2015 悠光堂)ほか。

◆パネルディスカッション・パネリスト

札幌国際大学観光学部教授、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長

吉岡 宏高 (よしおか ひろたか) 氏



北海道三笠市出身。日本甜菜製糖(株)、(株)たくぎん総合研究所を経て1997年まちづくりコーディネーターとして独立。2004年から札幌国際大学観光学部。空知産炭地域では、「負の遺産」と捉えられてきた炭鉱遺産を地域固有の資源として活用し、地域活性化を目指した活動を実践している。空知産炭地域活性化戦略会議委員長、産業観光検討会議委員長など100以上の公職を歴任。著書：『明るい炭鉱』(2012 創元社)、『福島 農からの日本再生』(共著、2014 農山漁村文化協会)ほか。

「ほっかいどう学」の学びを考えるシンポジウム2018 参加申込書

◆会社名・機関名

◆連絡先電話番号(代表者)

◆参加者 役職・氏名(全員の役職・氏名を記載願います。)

※ご記入いただいた個人情報については、本シンポジウムの開催に伴う事務手続に限り使用し、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に取り扱うことといたします。

■FAXでのお申し込み

本申込書に必要事項を記入の上、以下の番号へ送信してください。

FAX: 011-726-2352

■Eメールでのお申し込み

メール本文に必要事項を記入の上、以下のアドレスへ送信してください。

hkd-ky-hokkaidogaku@mlit.go.jp

■お問合せ先: 国土交通省北海道開発局開発監理部開発計画課

TEL: 011-709-2311 (内線: 5458, 5468 (担当: 遠藤、鎌田))